

News Release

つぎのミライは、
あなたの街から
はじまる。

NTT東日本グループ

2025年2月13日

株式会社 NTT ArtTechnology

NTT ArtTechnology × Bunkamura 共同企画 『北斎とジャポニスム コンサート』を静岡・東京にて開催

株式会社 NTT ArtTechnology(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:国枝 学、以下「NTT ArtTechnology」)は、「北斎とジャポニスム コンサート」を3月に静岡と東京で開催します。

本公演は、世界的に活躍する作曲家・藤倉大が葛飾北斎の生涯をテーマに制作している新作オペラにちなみ、3月22日(土)に静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ、3月28日(金)に東京・Bunkamura オーチャードホールにて開催します。



葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」

(山梨県立博物館所蔵 画像提供:株式会社アルステクネ)

2025年3月22日(土)に静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ、2025年3月28日(金)に東京・Bunkamura オーチャードホールにて、『北斎とジャポニスム コンサート』を開催します。

英国在住で世界的に活躍する作曲家・藤倉大は現在、葛飾北斎の生涯をテーマにした新作オペラに取り組んでいます。その新作オペラにちなみ「北斎とジャポニスム」をテーマとしたコンサートを開催いたします。

葛飾北斎をはじめとする日本の文化芸術は、西洋の芸術に大きな影響を与えました。その影響は19世紀後半から20世紀初頭にかけて特に強まり「ジャポニスム」と呼ばれ、絵画だけではなく音楽にも波及しました。北斎の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」に創作意欲を刺激された、ドビュッシーの交響詩「海」やラヴェルの「洋上の小舟」に代表されるように、ジャポニスムの影響を受けたクラシック音楽は数多く知られており、中でもプッチーニの「蝶々夫人」は最も影響を受けた作品と言えます。本公演ではそれらの作品と合わせ、藤倉大の「箏協奏曲」もご紹介します。

指揮を務めるのは若手注目株の一人として活躍の場を拓けている、角田鋼亮。第6回静岡国際オペラコンクール最高位および三浦環賞を受賞したソプラノ吉田珠代と、国内外の著名指揮者から信頼を集めるメゾソ

プラノ清水華澄、伝統を受け継ぎながら箏の新たな魅力を追求する若き実力者 LEO、そしてオーチャードホールフランチイズオーケストラで国内屈指の名門といわれる東京フィルハーモニー交響楽団が出演します。そしてトークゲストとして藤倉大（オンライン参加）と、海外でも多くの演劇公演を行うとともに、ベルリン国立歌劇場で日本人として初の演出を行った演出家・宮城聰を迎えます。

ジャポニスムの影響を受けたクラシックの名曲とデジタル技術による北斎作品とのコラボレーションをぜひお楽しみください。

■ 『北斎とジャポニスム コンサート』について

公演名：『北斎とジャポニスム コンサート』

出演者：作曲家：藤倉大（英国からオンライン参加予定）/演出家：宮城聰/指揮者：角田鋼亮

ソプラノ：吉田珠代/メゾソプラノ：清水華澄/箏：LEO/管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

曲目：ラヴェル：洋上の小舟（オーケストラ版）

藤倉大：箏協奏曲

ビゼー：歌劇『カルメン』より「ハバネラ」

ブッチェニ：歌劇『蝶々夫人』より花の二重唱「桜の枝をゆすぶって」

ブッチェニ：歌劇「蝶々夫人」より「ある晴れた日に」

ドビュッシー：交響詩「海」よりⅢ.風と海との対話 ほか

※出演者、演奏曲目・順番は変更になる可能性がございます。

■ 静岡公演

公演日：2025年3月22日（土）16:00 開演/18:00 終演予定

会場：静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ 中ホール・大地

料金：全席招待（入場無料）

主催：NTT ArtTechnology

企画制作：Bunkamura

特別協力：公益財団法人静岡県文化財団

協力：NTT 東日本/ NTT 西日本/ KAJIMOTO

公演サイト：<https://www.granship.or.jp/visitors/event/detail.php?id=3426>

■ 東京公演

公演日：2025年3月28日（金）19:00 開演/21:00 終演予定

会場：Bunkamura オーチャードホール

料金：全席招待（入場無料）

主催：NTT ArtTechnology/Bunkamura

企画制作：Bunkamura

協力：NTT 東日本/KAJIMOTO

公演サイト：https://www.bunkamura.co.jp/orchard/lineup/25_hokusai.html

【本件に対する問合せ先】

株式会社 NTT ArtTechnology

デジタルアート推進事業部

TEL：03-5353-0844

MAIL：info@ntt-arttechnology.com

【静岡公演に対する問合せ先】

静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

公益財団法人静岡県文化財団 文化事業課 渡邊麻恵

TEL：054-203-5714

MAIL：asae@granship.or.jp

(別紙)『北斎とジャポニスム コンサート』出演者



©Alf Solbakken

【作曲家】藤倉大

大阪生まれ。15歳で単身渡英し J.ベンジャミンらに師事。1998年セロツキ国際作曲コンクールに当時最年少で優勝。これまでにロイヤル・フィルハーモニック作曲賞、国際ウィーン作曲賞、パウル・ヒンデミット賞、第57回／第63回／第67回／第70回尾高賞、第19回芥川作曲賞、中島健蔵音楽賞、エクソンモービル賞、2017年ヴェネツィア・ビエンナーレ音楽部門銀獅子、2019年文化庁芸術選奨文部科学大臣賞等を受賞。オペラの国際評価も高く、2015年にシャンゼリゼ劇場、ローザンヌ歌劇場、リール歌劇場の共同委嘱によるオペラ《ソラリス》を世界初演。20年には自身3作目のオペラ《アルマゲドンの夢》を新国立劇場で世界初演した。17年から東京芸術劇場で開催の『ボンクリ・フェス』アーティスティック・ディレクターを務める。近年の活動は多岐に渡り、リモート演奏のための作品発表や、テレビ番組の作曲依頼も多数。録音はソニー・ミュージックジャパンインターナショナルや自身主宰の Minabel Records から、楽譜はリコルディ・ベルリンから出版。<https://www.daifujikura.com>



©Takashi Kato

【演出家】宮城聡

SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ館長。東京大学で小田島雄志・渡邊守章・日高八郎各師から演劇論を学び、1990年ク・ナウカ旗揚げ。2007年 SPAC 芸術総監督に就任。2017年『アンティゴネ』をフランス・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演。近年はオペラの演出も手がけ、22年6月フランス・エクサンプロヴァンス音楽祭にて『イドメネオ』、同年12月にはドイツ・ベルリン国立歌劇場における初の日本人演出家として『ポントの王ミトリダーテ』を演出。2004年第3回朝日舞台芸術賞受賞。2005年第2回アサヒビール芸術賞受賞。2018年(平成29年)度第68回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2019年4月フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。2023年第50回国際交流基金賞、ルネサンス・フランセーズ栄誉賞フランス文化普及賞を受賞



©Makoto Kamiya

【指揮】角田鋼亮

東海高校卒業後、東京芸術大学大学院指揮科修士課程並びにベルリン音楽大学国家演奏家資格課程修了。2008年、カラヤン生誕100周年記念の第4回ドイツ全音楽大学指揮コンクール第2位入賞。ベルリン・コンツェルトハウス管、ブランデンブルグ響、上海歌劇院管、N響、読響、都響、東響、東京フィル、名古屋フィル、京響、大阪フィル、九響等と共演している。2015年よりセントラル愛知交響楽団の指揮者を務め、2019年より常任指揮者に就任。2016-2020年 大阪フィルハーモニー交響楽団指揮者、2018-2022年 仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者を歴任するなど、いま日本で最も期待される若手指揮者の一人として各地にて活躍の場を拡げている。セントラル愛知交響楽団音楽監督を務めている。



【ソプラノ】吉田珠代

愛知県立芸術大学音楽学部及び同大学院を経て新国立劇場オペラ研修所修了。文化庁新進芸術家海外研修制度でボローニャ、ローム ミュージック ファンデーション特別研究生としてミュンヘン及びウィーンで研鑽を積む。2016年ズービン・メータ指揮ウィーン・フィルとサントリーホール30周年記念「第九」で共演。19年にはPMFにてエッセンバッハ指揮マーラー「千人の交響曲」に出演した他、ムーティ introduces 若い音楽家による『仮面舞踏会』アメリカをはじめ小澤征爾音楽塾、セイジ・オザワ松本フェスティバル、新国立劇場、日生劇場、東京・春・音楽祭等で活躍。最近では24年2月パブロ・エラス・カサド指揮NHK交響楽団定期『三角帽子』で指揮者から高い評価を受け、9月にはクリスティアン・アルミンク指揮二期会『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリーグでも絶賛されている。第6回静岡国際オペラコンクール最高位、及び三浦環賞受賞。第12回岩城宏之音楽賞受賞。二期会会員。



©Mariko Tagashira

【メゾソプラノ】清水華澄

静岡県出身。国立音楽大学首席卒業、同大学院首席修了。新国立劇場オペラ研修所修了後、文化庁在外派遣研修員およびローム ミュージック ファンデーション在外音楽研究員として渡伊。新国立劇場、東京二期会、日生劇場などのオペラ公演で『イル・トロヴァトーレ』アズチーナ、『アイダ』アムネリス、『ローエン格林』オルトルート、『サロメ』ヘロディアスなどを演じており、近年では二期会『ドン・カルロ』エボリ公女、新国立劇場『リゴレット』マッダレーナ、兵庫県立芸術文化センター『蝶々夫人』スズキなどを演じて高く評価されている。コンサートソリストとしても活躍しており、マーラー「交響曲第2番〈復活〉」「第3番」「第8番〈千人の交響曲〉」、ヴェルディ「レクイエム」、ベートーヴェン「交響曲第9番」、R シュトラウス「四つの最後の歌」などで国内外の著名指揮者と共演。国立音楽大学、及び大学院准教授。名古屋音楽大学客員准教授。二期会会員。



©Nippon Columbia

【箏】LEO

9歳より箏を始め、カーティス・パターソン、沢井一恵の両氏に師事。16歳でくまもと全国邦楽コンクールにて史上最年少・最優秀賞・文部科学大臣賞受賞。一躍脚光を浴び、その後東京藝術大学に入学。『情熱大陸』『題名のない音楽会』『徹子の部屋』など多くのメディアに出演。セバスティアン・ヴァイグレ、井上道義、沖澤のどか、東京フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団などと共演。鈴木優人指揮・読売日本交響楽団との共演で、藤倉大委嘱新作・箏協奏曲を2021年に世界初演。24年にはヨーロッパに招聘され同作品をウィーン・コンツェルトハウス、スロヴァキア・フィルハーモニーでも好演を果たしている。箏奏者として初めてブルーノート東京や、SUMMER SONICにも異例の出演を果たすなど、箏の新たな可能性を広げる活動に注目と期待が寄せられている。出光音楽賞、神奈川文化賞未来賞、横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞。



©上野隆文

【管弦楽】東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立、日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督ジョン・ミヨンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフ。自主公演の他、新国立劇場他でのオペラ・バレエ演奏、NHK 他における放送演奏で高水準の演奏活動を展開。海外公演も積極的に行い、高い注目を集める。1989年より Bunkamura オーチャードホールとフランチャイズ契約を締結。文京区、千葉市、軽井沢町、長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。
<https://www.tpo.or.jp/>